

■今月の特選句

2016年7月

どの寺も紫陽花咲けば名所なり

津田このみ

あじさい寺増えましたね。どこもかしこも紫陽花寺で、最後に残った寺が希少価値で「紫陽花無い寺」として多くの客を集めることになるでしょう。

地球の味知りつくしたりなめくじり

稲葉純子

擬人化のお手本のような句です。なめくじりを褒めているように見えますが、なめくじの哀しさも伝わってきます。滑稽の何処かに悲しみ。

気象庁の気分次第で梅雨に入る

小川鈍太

データを並べ立てても最終的には人間の判断。「そろそろ田植だね。田には水が必要だ。梅雨入り宣言しましょう」「有難うございます」。

甚平に馴れて失せたる怒り肩

越前春生

甚平はわが国のもっとも特徴的な制服である。ただし、肥満体には似合わぬ。着こなしも夏痩せをしてこそである。大方はなで肩になる。

日焼して裏も表もない御方

小林英昭

ゴルフ焼けでしょうか。「社長様こちらをご覧下さいませ」「見てるよ」「あら、お洋服を後ろ前に着ているのかと思いましたの」「失礼なヤツだ」。

警棒の緑蔭ばかり警邏して

久松久子

今年の夏は暑い。お巡りさんご苦労さまです。緑蔭は犯罪の温床ですからなあ。どうしても念入りになる。「警棒の緑蔭を出で秋めくと」。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

殻ばかり酒宴の締めのかき汁

・・・メニューに記載かきの殻汁

ひがし愛

・・・愛されてをり許されてをり

青葉してわたしふらつくお濠ばた

奥脇弘久

時の日やたつぷりあるさロスタイム

・・・毎日が日曜日だからさ

山本 賜

・・・予報士よりは腕は確かさ

初鯉値を釣り上げて温暖化

加川すすむ

かすみ草引き立て役に徹しをり

・・・私みたいと言ひたいんでしょ

飯塚ひろし

・・・一戸建てなり電化も叶ひ

季語ふたつ掛け合わせ生る夏蜜柑

田中早苗

天井を鼠走るか徹の宿

・・・夫婦喧嘩の舞台ととのふ

川島智子

・・・追ひ越すわけにやイカンでしょうが

ダービーの騎手は御者とは言わぬもの

久我正明

喉にゐる仏のせがむ生ビール

・・・擬人化をして責任転嫁

伊藤洋二

天井を鼠走るか黴の宿

・・・夫婦喧嘩の舞台ととのふ

赤瀬川至安

気象士やゆっくり進む走り梅雨

・・・追ひ越すわけにやイカンでしょうが

高田敏男

ダービーの騎手は御者とは言わぬもの

・・・2DKでも奥さまがある

高橋きのこ

喉にゐる仏のせがむ生ビール

・・・擬人化をして責任転嫁

田村米生

■今月の滑稽句

- | | |
|-----------------------|-------|
| 平和ポケットランプ一喝蜂の剣 | 青木輝子 |
| 【佳作】 道の駅曲がったきゅうりみずみずし | 青木輝子 |
| 年金の下流の暮らし冷やっこ | 青木輝子 |
| 【佳作】 青嵐やホイップクリームの雲つくる | 青山桂一 |
| わが眼には白靴履きしお下げ髪 | 青山桂一 |
| 五月雨や雲の裾から流れ出づ | 青山桂一 |
| 今捨てた写真の人と出会ふ朱夏 | 赤瀬川至安 |
| 【佳作】 ぶきつちよな独り暮しよ錦鯉 | 赤瀬川至安 |
| ビル中へ頬をかすめて親つばめ | 秋月裕子 |
| 照り返すさまざまなみどりの精よ | 秋月裕子 |
| 【佳作】 高架下揺れるのれんにビール注ぐ | 秋月裕子 |
| 【佳作】 仏壇に箆筒流るる出水かな | 飯塚ひろし |
| 百足出て靴を百足注文す | 飯塚ひろし |
| そら豆に話しかけるも一文字 | 井口夏子 |
| 【佳作】 生まれつき尺取虫でつままない | 井口夏子 |
| かたつむり無一文のマイホーム | 井口夏子 |
| 【佳作】 おぼろ夜や猫はネコ語で句をひねり | 池田亮二 |
| 父の日や老青父子連れしょんべん | 池田亮二 |
| 麦を刈るサミットさんの来る前に | 伊藤浩睦 |
| 海軍記念日セーラー服の男たち | 伊藤浩睦 |
| 【佳作】 三年で飽きてあげない鯉幟 | 伊藤浩睦 |
| 青柿の不発の弾に逃げ惑ふ | 伊藤洋二 |
| 【佳作】 仲立ちは無能無策よ水喧嘩 | 伊藤洋二 |
| 【佳作】 空ひとつ支へて泰山木の花 | 稲沢進一 |
| 遠雷やぴりりぴりりと犬の耳 | 稲沢進一 |
| よく来たなあ麦茶一杯ありがたし | 稲沢進一 |

- 【佳作】 低血圧で悩んでいるのか青蛙
虫除けのスプレーしても蚊に刺され
稲葉純子
稲葉純子
- 禁煙の札の付けたし花煙草
梅雨入りて休日過ごすパチンコ屋
井野ひろみ
井野ひろみ
- 【佳作】 十薬のなぜか厠に似合ひけり
井野ひろみ
- 母ちゃんの蚊を取り逃す夜更けかな
転げ落つ予知能力の地震(ない)子猫
上山美穂
上山美穂
- 【佳作】 蝙蝠やネオンの街を浮かれとぶ
上山美穂
- 【佳作】 蝸牛跳ぶ外はなし枝の先
満開は夫帰る頃水中花
丸亀の城も動くや洪団扇
氏家頼一
氏家頼一
氏家頼一
- 【佳作】 はしり梅雨抜き返さむとしてみたり
砥部焼の白磁を染める新茶かな
野葡萄の蔓にひきずる我が過去も
梅岡菊子
梅岡菊子
梅岡菊子
- 【佳作】 鰻屋の元祖どれでもよかりけり
ひよっとこの口ひとすぢの蚊遣香
越前春生
越前春生
- 恋風に揺れてはにかむサクランボ
点灯に狼狽をするアブラムシ
岡野 満
岡野 満
- 【佳作】 身を焦がし恋によろめく蛍かな
岡野 満
- 風下に我が家ありけり栗の花
小川鈍太
- 【佳作】 この蟻を救はば吾も極楽へ
小川鈍太
- ゲー出して開幕告げる七変化
奥脇弘久
- 【佳作】 難題は後回しにして五月尽
奥脇弘久
- 梅雨晴間野暮用多きループタイ
加川すすむ
- 【佳作】 若い気のほんのちよつぴりさくらんぼ
加川すすむ
- 政界の目糞鼻くそ黴臭し
笠 政人
- 【佳作】 月光に濡れて妖艶七変化
笠 政人
- 豊作のキャベツ粉碎地に返す
笠 政人

- 若者や汗を舗道に振り落とし
人々は光を崇め夏至観音
【佳作】 小判草植えて我が家は金持ちに
加藤澄子
加藤澄子
加藤澄子
- みどりの夜悪所辺りの思案顔
【佳作】 光りたるあと風薫る変幻さ
明易の時空に独り休刊日
金澤 健
金澤 健
金澤 健
- 【佳作】 引越して先ず鯉幟ベランダに
大仏の化粧直しや五月晴
川島智子
川島智子
- 【佳作】 用意する厚めの下着更衣
燕の子元気で歌ふ校歌かな
久我正明
久我正明
- トレンドは昔のわたし更衣
恥あれど悩みは無くて桜桃忌
【佳作】 色めけど紫陽花いつも一括り
工藤泰子
工藤泰子
工藤泰子
- 【佳作】 いずれ散る定めと眺がむ花爛漫
あかんべーしているようだよ花菖蒲
【佳作】 かわむいて(皮口いて・川向いて)坊ちゃんの喰う柏餅
小泉花子
小泉花子
小泉花子
- 【佳作】 うちの紙魚和食洋食なんでもこい
箆に受け流しそうめんリサイクル
小林英昭
小林英昭
- 【佳作】 座敷堂壁に向へば黴臭き
菖蒲園江戸系伊勢系肥後競ふ
枇杷熟れて草刈りし径雉子走る
佐野萬里子
佐野萬里子
佐野萬里子
- いつからか婦唱夫随の冷し酒
どうみてもプラス評価の若葉風
【佳作】 汗疹ふゆ謝罪会見てしより
下嶋四万歩
下嶋四万歩
下嶋四万歩

- 妻の臍曲がりを直す柏餅
乳房の如苺大福やはらかし
【佳作】 鯉幟口一線を抜け出せず
寿命秀次
寿命秀次
寿命秀次
- 【佳作】 角刈りにとにもかくにも剪定す
見るからに外国生まれ鯉幟
もう二度と叶はぬ願ひ御開帳
白井道義
白井道義
白井道義
- 【佳作】 薔薇展や蛇皮バッグ持つ婦人
育爺と孫の並んだ昼寝かな
鈴木洋子
鈴木洋子
- 他人事じゃない明日田植
【佳作】 ダンゴ虫が急ぐ自由時間
いちご一つ添えるだけで何かが緩む
鈴木和枝
鈴木和枝
鈴木和枝
- 【佳作】 晴れた日にあじさいの花天に向く
朝がたにかえる鳴く声用水路
晴天に黄色の花に蝶が寄る
鈴木哲也
鈴木哲也
鈴木哲也
- 夏浅し怨みは深くお岩さん
【佳作】 青嵐に口笛吹けば埴輪かな
高田敏男
高田敏男
- 【佳作】 万緑や落とした入歯見つからず
幻想的と負け惜しみ梅雨の山
高橋きのこ
高橋きのこ
- 祈りの力信じたる若葉かな
たいがんのぐびじんさうをみたりけり
【佳作】 ひなげしや飛田新地の懐かしき
田中 勇
田中 勇
田中 勇
- 【佳作】 一刀流袈裟斬り胴斬り大筈
ひつぱり凧四月の地震(なる)に熊モンは
田中早苗
田中早苗
- スカートをしつかり押へ浮いてこい
ぼうたんの乳母(おんば)日傘で育てられ
田村米生
田村米生
- 【佳作】 夏のれんゆれて決着つかぬまま
早乙女の体験学習小学生
津田このみ
津田このみ
- 【佳作】 サミットてふふんどし借りて夏相撲
白き花凧と胸張るとくだみは
そばすする我を励ます青田風
土屋泰山
土屋泰山
土屋泰山
- 父在れば百十五歳こどもの日
対岸はボーイソプラノ風薫る
【佳作】 居眠りの子の肩叩く扇子かな
飛田正勝
飛田正勝
飛田正勝

- 梅雨の入り黄傘並んだ歩道橋
青時雨帽子の上でリズムとる
【佳作】 メダカさんいくら逃げても鉢の中
中井 勇
中井 勇
中井 勇
- わが庵に無断同居のごきぶりめ
角槍頭出してでで虫律儀なり
【佳作】 バンザイをして裸子になりけり
新島里子
新島里子
新島里子
- 相合の傘が傘立梅雨に入る
沈黙の別れに煙る梅雨の月
梅雨寒や人肌恋し猫を抱く
【佳作】
西をさむ
西をさむ
西をさむ
- 入梅に猫の手借りるてる坊主
【佳作】 入るやら去年の水着とにらめっこ
冷蔵庫ビールに磁石あるがごと
花岡直樹
花岡直樹
花岡直樹
- マネキンに二人がかりや更衣
百足駆くパラパラマンガさながらに
ふと気付くあれは昼寝の夢の中
【佳作】
原田 曄
原田 曄
原田 曄
- 水中花散る楽しみを許されず
子供等を駆り出す募金子供の日
【佳作】
ひがし愛
ひがし愛
- 几帳面とどけちは同じ水を打つ
払子(ほっす)持つ羅漢に藪蚊近付きぬ
【佳作】
久松久子
久松久子
- 真白を木陰に育て十薬草
花菖蒲だらりの帯と袖のごと
【佳作】 姑の気分子燕孵らぬは
日根野聖子
日根野聖子
日根野聖子
- 魔性秘むことをらずや紅い薔薇
春泥や戸惑うており貝一つ
限られた命うるはし花月夜
【佳作】
広田弘子
広田弘子
広田弘子
- 根力に草取りの息勢ひ込む
二番茶の蒲鉾型に機械摘む
【佳作】 晩婚のジュンブライドに化粧濃し
藤岡蒼樹
藤岡蒼樹
藤岡蒼樹

- 【佳作】 孫の手が優しく握る子猫の手
縞模様ほんとは好きじゃない蜂も
夜濯の疲れて延びる下着かな
藤森荘吉
藤森荘吉
藤森荘吉
- 深呼吸なり新緑をひと呑みの
亡母の声聞く畦道のホタル追ふ
【佳作】 県境に卯の花咲かせ夏は来ぬ
藤原セツ子
藤原セツ子
藤原セツ子
- ステテコや地位を得たりて和のファッション
【佳作】 美脚あり大根ありの半ズボン
あっぱっぱ見えぬ中身が見えて来る
細川岩男
細川岩男
細川岩男
- 火星金星競ひ合はせて夏の空
【佳作】 夏草を裸足で愛でる朝香邸
水芭蕉鹿の子模様を描きたる
松井寿子
松井寿子
松井寿子
- 【佳作】 冷蔵庫に隠す不倫のチョコレート
脱脂綿で拭き取る竹夫人の括れ
花摘みに出た庭蜥蜴の尾を切りぬ
松井まさし
松井まさし
松井まさし
- 【佳作】 ドクダミや地下茎組織侮れず
虎杖の見分け伝授す孫どもに
消しゴムのかす吹き飛ばす青疾風
三橋百笑
三橋百笑
三橋百笑
- オバマ氏へ小旗振るごとねこじゃらし
種ナシの枇杷が出来たらノーベル賞
【佳作】 薔薇園のバラのあちこち鼻の紋
南とんぼ
南とんぼ
南とんぼ
- 【佳作】 サイクリングコース七坂卯波寄す
桐の花笑まし荒彫り地藏尊
夏至の雨背戸の大樹に鴉の巢
百千草
百千草
百千草
- 【佳作】 わたくしの背中で泳ぐ水着痕
へソクリの紙幣の顔や黴の香
豊作のプレミア付ける梅焼酎
森岡香代子
森岡香代子
森岡香代子
- 巢燕を覗くなと言ひ親燕
嫌はれてゐるとも知らず夏の草
【佳作】 挨拶や置き所無き夏帽子
八木 健
八木 健
八木 健

- | | | |
|------|-------------------|-------|
| | 炊き出しの真摯な奉仕夏帽子 | 八洲忙閑 |
| 【佳作】 | 気取りたり選り取り見取り夏帽子 | 八洲忙閑 |
| | 夏草や戦場ヶ原戦場に | 八洲忙閑 |
| | 一の風追つて二の風麻暖簾 | 八塚一青 |
| | 船遊び何に酔ったか分からない | 八塚一青 |
| 【佳作】 | 指先で風をあやつる扇風機 | 八塚一青 |
| | 永き日やラマーズ法で豚が鳴く | 柳 紅生 |
| 【佳作】 | 白靴の昔はいなせ今猫背 | 柳 紅生 |
| | サングラスおのれの殻に閉じこもり | 柳 紅生 |
| | 神様に祈りし日々や夏ダウン | 柳澤京子 |
| | 万緑や認知予防のアイウエオ | 柳澤京子 |
| 【佳作】 | どのケース深しあぐねる更衣 | 柳澤京子 |
| | 鳥群れて今日を限りの渡りかな | 山下正純 |
| 【佳作】 | 天涙の雨に虹んで七変化 | 山下正純 |
| | 海原に光りて浮かび豆の飯 | 山下正純 |
| | 老婆の悲鳴肥満の蜂を飛び立たす | 山本けい子 |
| 【佳作】 | 芍薬を励ましてゐる添へ木かな | 山本けい子 |
| | 田草取る手抜きの発覚恐れつつ | 山本けい子 |
| 【佳作】 | ふらここのうしろ通るな七つの子 | 山本 賜 |
| | 塩らつきよ食べさせられて持たされて | 山本 賜 |
| | 義歯と義歯ぎしぎしキスす春の宵 | 横山喜三郎 |
| | 地震の揺れ酔ひ加速して花筵 | 横山喜三郎 |
| 【佳作】 | 捨て畑をなげき蕨を嬉々と採る | 横山喜三郎 |
| | 秀才を幼な名で呼ぶ夏座敷 | 吉原瑞雲 |
| | 爺達者伐れぬ胡桃が花垂らす | 吉原瑞雲 |
| 【佳作】 | 寄ってけと団扇が招く独り者 | 吉原瑞雲 |